



やまなし

2013.3.27
vol.10

no. 2

contents

- 2 「子どもとお話の世界との出会い」
- 4 子ども図書室を支える学生ボランティア活動
- 5 利用者の声
- 6 学生にすすめる本
- 7 図書館トピックス
 - 「生物学的生命と物語られるいのち
— 医療現場の意思決定プロセスをめぐって」を開催
 - 医学分館のコピー機の更新について
テーマ展示
- 8 ● 「新生活におくる本2013」開催中 [本館]
今後のイベント紹介
- 「子どもの本を知る・連続講座」のご案内

The Yamanashi
Bulletin of the University of Yamanashi Library

「子どもとお話の世界との出会い」

トリウミ ジュンコ
附属図書館子ども図書室長 鳥海 順子

1. 「思い思いに」「ゆったり」

今日も、子ども図書室は小さな子どもとお母さんで大にぎわい。大好きな本を持ち出してじっくり見ている子ども、仕掛け絵本を動かしながら友だちと楽しんでいる子ども、大学生のお兄さんに大型絵本で読みきかせをしてもらっている子どもなど、「思い思いに」「ゆったり」とお話の世界を楽しんでいます。山梨大学附属図書館子ども図書室は、全国でも数少ない大学に併設された地域の子どものための図書室です。ここでは、赤ちゃんから大人まで、「思い思いに」子どもの本を読みながら「ゆったり」と過ごすことができます。子どもとお話の世界との出会いには、この「思い思いに」と「ゆったり」がいいのです。

本には作り手のメッセージが込められていますが、文字通り読み手に伝わるとは限りません。作り手の意図に関わらず、「思い思いに」読み手が心を動かされる場所があつていいと思います。絵本の場合には、文字だけではなく、絵の力も加わりますから、もっともっと「思い思いに」なるでしょう。私が日頃接している知的障害のある子どもたちは、「思い思いに」本を読む達人です。たとえば、ゆうた君（仮名）は、「三びきのやぎのがらがらどん」の絵本がお気に入りです。吊り橋を渡るがらがらどんの「カタ、コト、カタ、コト」が始まると、にこにこしながらぴよんぴよん飛び跳ねます。そして、トロルが出てくる直前にさっと物陰に隠れ、トロルが登場すると勢いよく飛び出してきた、トロルに向かって何度もパンチをしま

す。最後に大きいやぎのがらがらどんがトロルをやっつけると、「ッター（ヤッター）」と言いながら、またぴよんぴよん飛び跳ねます。絵本の世界と一体化して、自分の気持ちを全身で表現しているゆうた君の絵本の楽しみ方はとても素敵です。

大人の時間はせつちかちですが、子どもの時間は「ゆったり」です。ミヒヤエル・エンデの作品「モモ」は、不思議な力をもつモモという女の子が時間どろぼうから時間を取り戻してくれるお話ですが、子どもとお話の世界に入り込んでしまうと、まさに現実とは異なる「ゆったり」時計が動き始めます。そして、この「ゆったり」した時間の中で、子どもは心というキャンバスに、いろいろな情景を描いていきます。今年、生誕百年を迎える新美南吉の有名な作



品「ごんぎつね」ではおろかさ、せつなさを、「でんでんむしのかなしみ」では哀しさを、「手袋を買いに」では愛しさ、やさしさを子どもなりに感じることでしょう。子どもは出会ったお話の世界に「思い思いに」「ゆったり」と浸りながら、深々とした情感を育てていきます。

2. 「読みきかせ」というお話の世界

女優の中井貴恵さんが代表を務める「大人と子供のための読みきかせの会」というグループがあります。この公演会で私は、大人にとっても読みきかせは至福の時間であること、読みきかせそれ自体が独自のお話の世界を創りあげる



ことにあらためて気づかされました。

その日の演目は児童書「つりばしゆらゆら」で、大型紙芝居（絵巻型）を用いながら、ピアノ、箏、尺八の生演奏を伴うものでした。主人公の「きつねのこ こんすけ」と友達「くまのこ」「うさぎのこ」の3匹は、谷川の上にかかる吊り橋を見つめますが、ゆらゆらするのでこわくて渡れません。大きく吊り橋を揺らしながら渡ってきた「いのししのおじさん」が、向こう側に同い年のきつねの女の子がいることを教えてくれます。その話を聞いた「こんすけ」は女の子に会いに吊り橋を渡ってみようと思えます。次の朝は、「みつつ」、その次の朝は「いつつ」、その次の朝は「むつつ」「そろり、そろり、そろり、そろり・・・」。ある朝、「きつねのこ」は赤い椿の花をもってきて「あそぼ。」と、向こう側に小さな声で呼びかけます。「これ、あげる。」と差し出し、「ぼく、きつね こんすけ。」と「ちょっと はずかしそうに」言います。こんすけが吊り橋の半分まで渡れるようになったある日「また いつか あそぼ。」と橋の向こう側に言い、戻っていきます。ここでお話は終わります。作者である森山京さんは、多くの読者からこんすけをきつねの女の子に会わせてあげてほしいと懇願され、その後「あのこにあえた」という作品を書きました。でも、読みきかせで初めてこの作品に出会った私は、会えないままの方がよかったような気がしています。中井貴恵さんの温かな春の日だまりのような声と、谷川の水面をきら

きらときらめかせて通っていく春風のような心地よい音楽と、静かに場面を展開していく大型紙芝居とが織りなす印象派の絵のような世界に浸りながら、私はなつかしいような、不思議な感覚に陥りました。「こんすけ」がまだ見ぬきつねの女の子に言った「いつか」は、近い「いつか」のようにも、遠い「いつか」のようにも思えます。「いつか」は、大人になるにつれて忘れ去られたり、未完のまま終わってしまったりすることもあります。私になつかしく思ったのは、そんな「いつか」を待っていた子どもの頃の自分と再会したからなのでしょう。この不思議な体験は、読みきかせのゆったりとした時間の流れと、物語られない時間、つまり「間」の効果によるものが大きかったように思います。読みきかせは「間」によって、行間に込められた書き手（語り手）の思いを聞き手に届けることができます。「つりばしゆらゆら」の読みきかせの時間は、「いつか」を待つことのすばらしさを静かに語りかけてくれた珠玉のひとつときでした。

いつまでも寒かったこの春、私はモノトーンの枯野で小さな黄色いたんぼぼの花を見つけて嬉しくなりました。春を待ちわびていた「はなをくんくん」の動物たちのように。

それでは、この辺で。

「チョキン、パチン、ストーン。 “Snip, snap, snout. This tale’s told out.”」



子ども図書室を支える学生ボランティア活動

本学の子ども図書室は、2002年5月の開設以来、数多くの絵本や児童書を配架して地域の親子（主に乳幼児から小学校低学年）が自由に読書を楽しめるスペースを提供してきました。このたび、この子ども図書室が開室10周年という節目を迎え、開設月である5月には「子ども図書室10歳のお誕生日会」を開きました。この日は、学生ボランティアが折り紙で作った誕生日ケーキを壁面に貼り、来室した子どもたちと折り紙をしたり手遊びをしたりしました。

このように学生ボランティアが中心になって運営されているのが、子ども図書室の特徴であり魅力になっています。学生ボランティアの主な活動は、上記のような季節のイベントの開催と週3回の開室担当です。季節のイベントは年度によって異なりますが、子ども図書室が開設された5月にはお誕生日会、7月には七夕まつり、10月にはハロウィン、12月にはクリスマス会など、学生がアイデアを出し合って来室する子どもたちと楽しく過ごせる催しをしています。2010年には読売新聞社の呼びかけをきっかけに、学外に活動の場を移し、甲府市中心部の空き店舗で「まちなか子ども図書室・ハロウィン」を開催したこともあります。また、開室日には図書館カウンターで子ども図書室の鍵を借りて開室することからはじめ、本の貸出と資料の配架、読み聞かせや簡単なレファレンスをおこなっています。

昨年実施した子ども図書室学生ボランティアアンケートでは、学生ボランティアを行うきっかけとして「子どもと関わる機会が持てると思ったから」という回答が多く見られました。また、学生ボランティアとしての経験を「貴重な体験」「楽しい」「よかった」と、アンケート対象者全員がポジティブに振り返っています。開室担当のシフト体制を整えることの難しさや、ボランティア活動に対する学生間の認識の差に戸惑いを感じることもあるようですが、運営に積極的に関わろうとする学生たちの自発性が、これからの子ども図書室をさらに発展させていく原動力になっていくことを期待しています。

学生ボランティアによって運営される「温かみとつながり」のある子ども図書室に、皆さんもぜひ足をお運びください。

子ども図書室専門委員会委員 塚越奈美



文献複写サービス

チバ タツヤ
医学部 眼科学教室 地場 達也

学会発表や論文作成の際に、よく図書館文献複写サービスを利用させていただいています。

学内、学外からの申し込みが可能で紙媒体で文献を購入できるサービスです。電子ジャーナルで閲覧不可能な雑誌や本学図書館で所蔵していない雑誌などが対象です。図書館ネットワークを通じて全国の大学から文献を取り寄せて頂き、依頼してから概ね1日から1週間程度の期間で受け取る事ができるので、大変便利でありがたくこのサービスを利用させていただいています。この場をお借りして図書館スタッフの皆様に改めて御礼申し上げます。いつも迅速に対応して頂き誠にありがとうございます。

米国留学時代にもカリフォルニア州立大学の図書館文献複写サービスをよく利用していました。2、3校の州立大学内で図書館ネットワーク

があり、本邦とは著作権法の違いもあると思いますが、州立内の他校からコピーされた文献がPDFファイルでメール添付され受け取るシステムでした。文献複写料金は講座単位でグラント（科学研究費補助金）から引き落とされます。米国と本邦では著作権法の違いがありますので一概に比較はできませんが、利用者にとってPDFファイルでの文献管理はとても便利です。本邦でも利用者のモラルが守られれば、将来的には電子媒体での文献複写サービスなどが望まれます。

大学図書館は学術情報の基盤であるため、学生や大学職員にとって重要な役割を担っており、財政などの問題があると思われませんが、今後さらに発展し続けていく事を期待します。

[医学分館]

図書の魅力と図書館の活用

大学院医学工学総合教育部
コンピュータ・メディア工学専攻 1年 都築 聡

皆さんは図書という言葉聞いてどのような印象を受けますか？わからないことはインターネットを使って調べれば良いと考える人もいないでしょうか。しかし、インターネットを使って調べた場合、回答者が本当に正しいことを記述しているという保証はありません。その点図書は、その道の専門家によって記述されているため、安心して知識を得ることができます。また、1冊の図書を読むことで、その分野に関する様々な知識を一度に得ることができます。

私は、このような図書の魅力を、多くの人に知ってほしいです。そして、その機会を一番簡単に得ることができるのが山梨大学の図書館だと思います。図書館には専門書、小説、雑誌など様々な分野の図書があるため、読む図書に困ることはありません。また、読みたい図書がある場合に

は、OPACという蔵書検索システムがあるため、すぐに目的の図書を見つけることができます。読みたい図書がない場合でも、リクエストを出すことで購入してもらえ、とても助かります。このように、図書館を活用すれば自分が読みたいと思った図書を手軽に読むことができます。

図書というのは、同じ分野のものであっても、完全に同じ内容であるということとは決してありません。それぞれ1冊1冊の図書が個性をもっているため、自分に合った図書を見つけるのも楽しいと思います。ぜひ、図書館に足を運んでみてください。



[本館]

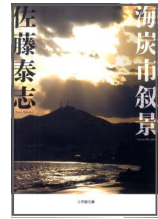


◎ 海炭市叙景

佐藤 泰志 著 小学館

本館2階 一般書架

913.6

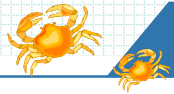


作者の佐藤泰志は、1949年函館市生まれ。デビュー当初は村上春樹と並び称され、芥川賞候補に5度もありましたが、本書の執筆中、41歳で自死により他界しています。

未完の遺作となったこの作品は、海炭市という架空の地方都市を舞台とした、18の短編の連作からなる小説です。冒頭話「まだ新しい廃墟」では、炭鉱をリストラされた若い兄とその妹が、なけなしの小銭を集めてロープウェイに乗り、小さな山の展望台に、初日の出を見に行きます。帰りの切符代が一人分しかないことに気付いた兄は、妹だけをロープウェイに乗せ、自分は雪山を歩いて下りると言い出しますが、麓に着いた妹が6時間待っても、約束した乗り場に現れません。後日、登山道とは正反対の、海に面した崖の途中で兄の遺体が見つかったことが、第2話に挿入された小さな新聞記事によって明かされます。

以後物語は、この街に住む老若男女の日常を題材に、決して賢いとは言えない、ごく普通の人々の前に立ちはだかる厳しい現実と、その狭間に一瞬だけ見える人生のきらめきを、淡々と、時には痛切に描いてゆきます。大晦日から季節を追って書き継がれた物語は初夏まで進み、執筆されなかった後半部では、海炭市の秋から冬が描かれる予定でした。冒頭話に垣間見える死の予感を、作者が、また物語そのものが、どのように乗り越えようとしていたのかは、現在を生きる私たち読者への、永遠の問いかけとなっています。

本作は、熊切和嘉監督により2010年に映画化され、ジム・オルークによる静謐な音楽を伴奏に、作品の世界が、ややウォームトーンに寄った形で映像化されています。DVDで市販されていますので、原作と比べてみるのも一興かと思えます。



オオスミ キヨハル
教育人間科学部 生活社会教育コース 大隅 清陽

◎ 「やるべきことが見えてくる研究者の仕事術 プロフェッショナル根性論」

島岡 要 著 羊土社

本館2階 一般書架

407

分館2階 開架図書
(第2)

407



タイトルからすると学生のみなさんは「研究者ではない自分には関係ない」と思われるかもしれませんが。しかし、この本のポイントは研究では無く、プロフェッショナルとして仕事をしていく上でどのような点に注意すべきかを的確に示している点です。学生の方にとっては「プロフェッショナルとは？」「自分はどのようなスタンスでキャリアパスを形成するか」という問いに対して正確に答えることは難しいでしょう。本書では具体的事例こそ研究者が経験するものを用いているが、その背景にある「成長するための共通する要素」について様々なビジネス書の情報も踏まえて記述しています。長期的な展望に関するものだけでなく、プレゼンテーションの効果的な方法や効果的な英語学習法なども紹介してお

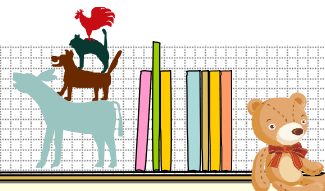
り、学生の皆さんにとってすぐに役立つ情報も多数掲載されています。著者の島岡先生はハーバード大学医学部で研究室を主催（現在は三重大学）されている傍らブログなどでも様々な情報を発信されており、本書もグローバルな視点での物事の考え方を体感できる良書です。是非ご一読されることをお勧めします。



こちらもおすすめ！
ハーバードでも通用した
研究者の英語術
ひとりで学べる英文ライティング・スキル
島岡 要, Joseph A. Moore 著 羊土社

分館2階 開架図書(第2) 407

医学部 薬理学教室 シノザキ ヨウイチ
篠崎 陽一



講演会

「生物学的生命と物語られるいのち — 医療現場の意思決定プロセスをめぐる」を開催



平成24年11月15日（木）、清水哲郎東京大学大学院特任教授をお招きし、「生物学的生命と物語られるいのち — 医療現場の意思決定プロセスをめぐる」と題した講演会を、医学部キャンパスにおいて開催しました。



この講演会は、附属図書館医学分館「生と死のコーナー」の関連行事（平成24年度附属図書館医学分館地域貢献事業）として実施されたもので、一般の方を含む約170名が参加しました。

講演会では、はじめに、平成24年6月に日本老年医学会がまとめた「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン」に、人文・社会科学系の研究者である清水特任教授がかかわった経緯について説明がありました。

このガイドラインの根底には、人の生命は生物学的生命

(biological life) を土台に、物語られるいのち (biographical life) が価値の源として形成されており、医学的介入は、物語られるいのちが生きる条件を整えることを目指すとの考えがあるとの説明がありました。そして、このような価値観に基づいて、医療従事者が患者のQOL (quality of life) にどのように関わるか、また意思決定プロセスをどのように進めていくかを順序だててわかりやすく講演されました。



参加者からは、「いのちに“物語られるいのち”と“生物学的生命”という2つの見方があるということがとても新鮮に感じた。」「インフォームド・コンセントのあり方について改めて考えさせられた。」「改めて、いのちについて考えることができた。」などの感想が寄せられました。

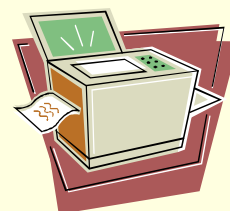


医学分館のコピー機の更新について



医学分館の3台のコピー機は、情報処理システムの更新に伴って、段階的に丸善コピー機から、大学生協が販売するプリペイドカードを利用するコピー機に変更になっています。（経過措置として年度末まで丸善コピー機1台を残しましたが、平成25年3月31日をもって撤退します。）既に変更となっている2台のうち総合情報戦略機構により設置された1台は、複合機であり、プリンターとしての機能もありますので、情報検索コーナー等やUSBからの印刷が可能になりました。（プリペイドカードによる課金制）。

なお、プリペイドカードは、自販機が館内に設置されていますのでこちらで購入して下さい。



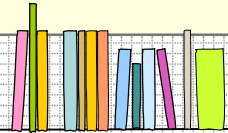


テーマ展示「新生活におくる本2013」開催中 [本館]



学生の方々に新しい趣味分野への興味を持ってもらうため、期間ごとに1つのテーマを設定し、関連した図書を展示、貸出をする「テーマ展示」。今回は、毎年恒例の「新生活におくる本」です。初めての“ひとり暮らし”初めての“料理”初めての“大学生生活”に役立つ図書を展示しています。全て貸出可能です！ぜひご利用ください！

今後のイベント紹介



平成25年度山梨県・山梨大学連携事業

連続講座

「子どもの本を知る・連続講座」(全5回)のご案内

子ども図書室では、山梨県と山梨大学の連携事業の一環として、山梨県立図書館と山梨大学の共同企画により、「子どもの読書活動スキルアップ講座」を平成25年度も実施します。テーマは「子どもの本を知る・連続講座」で全5回の開催です。

講座は、連続して受講することも、各回ごとの参加も可能です。



■ ■ 講座開催日程 (予定) ■ ■

- 第1回： 6月 「子どもの本についての基本」
- 第2回： 7月 「読み聞かせの基本(実践講座)」
- 第3回： 9月 「学校で活用できる子どもの本」
- 第4回： 11月 「子どもの本を知ることの意味」
- 第5回： 2月 「子どもの本のこれからを知る」

● お申し込み・お問い合わせ ●

山梨県立図書館サービス課 子ども読書推進担当
〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1
TEL 055-255-1040(代) FAX 055-255-1042

主催：山梨県立図書館・山梨大学附属図書館子ども図書室

◆ イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館ホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

学外の方への利用案内



本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生、一般の方々も利用できます。詳細は下記まで。

図書館HP <http://lib.yamanashi.ac.jp/>

本館 TEL 055-220-8066 (情報サービスグループ)

医学分館 TEL 055-273-9357 (医学情報グループ)



山梨大学附属図書館報

「やまなし」 第10巻第2号

2013年3月27日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063

● 表紙撮影：図書・情報課 職員
場 所：山梨大学 (甲府キャンパス・生命環境学部 S3号館)